

東北縦貫自動車道
（仮称）花巻 PA スマートインターチェンジ

実施計画書（概要版）

令和元年 9 月

岩手県

岩手県花巻市

目 次

1.	路線名	1
2.	連結位置及び連結予定施設	1
3.	連結を必要とする理由	3
4.	計画交通量、供用予定時期	4
5.	連結のために必要な工事に要する費用の概算額	4
6.	管理・運営形態	4
7.	スマート IC の設置により期待される整備効果	5
8.	周辺道路整備計画図（高規格、花巻市周辺一般道）	8

1. 路線名

高速自動車国道の路線名：東北縦貫自動車道弘前線

2. 連結位置及び連結予定施設

連結位置：岩手県花巻市諏訪（上り線）、大谷地（下り線）

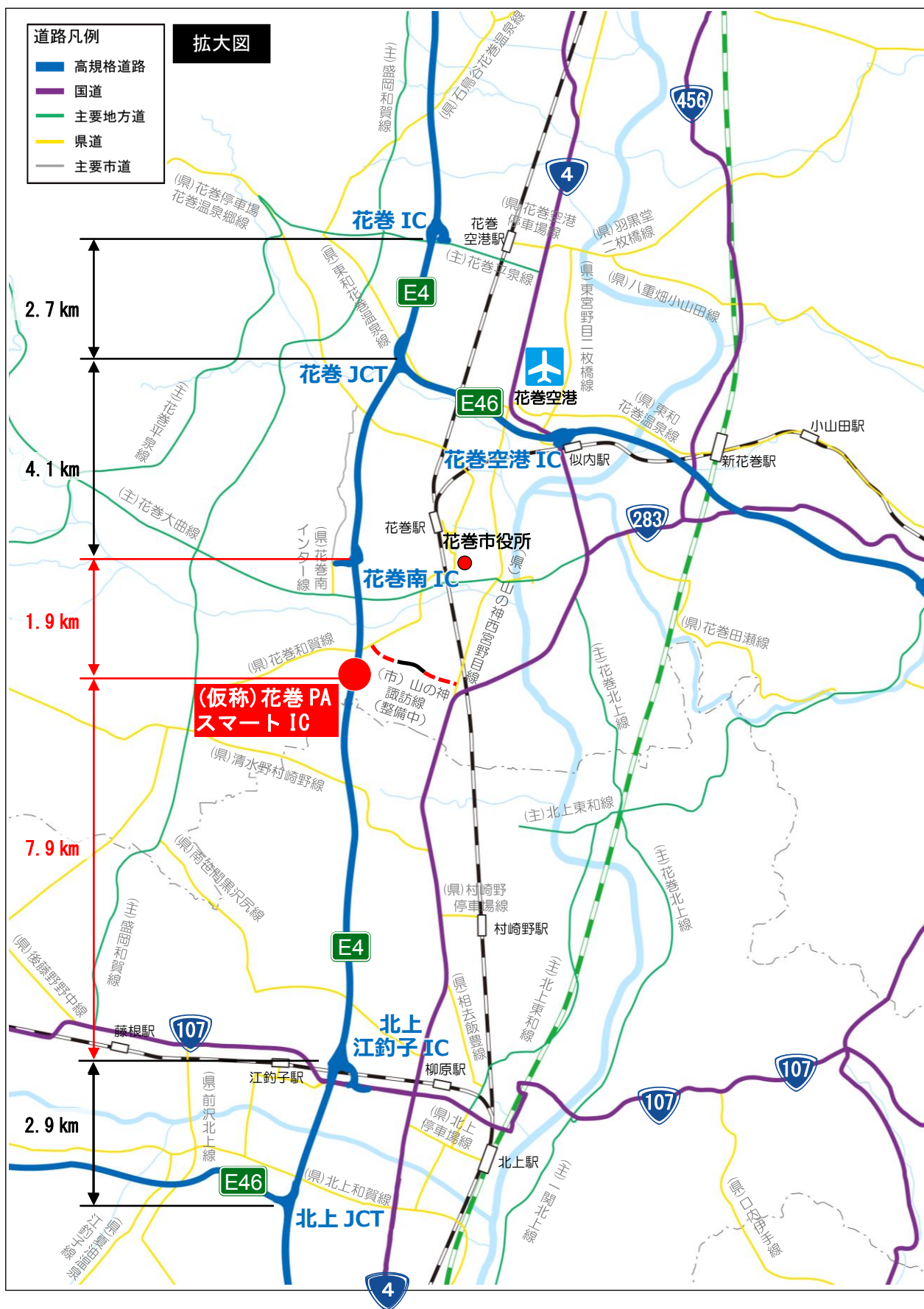
連結予定施設：上り線 市道山^{やま}の神諏訪^{かみすわ}線

下り線 一般県道花巻^{はなまき}和賀^{わが}線

▼スマート IC 設置箇所図



スマート IC 設置予定箇所図



3. 連結を必要とする理由

(1) 連結の必要性

(仮称)花巻 PA スマート IC は、花巻市の諏訪・大谷地地区に位置し、E4 東北自動車道 花巻南 IC から約 1.9 km、北上江釣子 IC から約 7.9 km の箇所に設置されている花巻パーキングエリアに連結される。

花巻市に係わる現状と背景に、以下の理由により、スマート IC の設置が必要である。

1) 地域産業の支援

花巻 PA 周辺には製造業や花巻機械金属工業団地、北上工業団地、花巻市公設地方卸売市場が立地しているが、混雑区間を通過することから、IC アクセスに時間を要している。

(仮称)花巻 PA スマート IC の整備により、花巻 PA 周辺の製造業や工業団地と東北縦貫自動車道へのアクセス性向上により、完成品の輸送、材料・部品の調達や営業などの企業活動を支援する。近年、北上工業団地への大規模な新工場建設が進んでおり、周辺への接続を行うことで、岩手県南地域のより一層の産業の発展が見込まれる。

また、花巻市公設地方卸売市場の入出荷時の輸送効率性が向上し、鮮度向上や入出荷量の増加が期待される。

2) IC アクセスの向上

高速 IC とのアクセスに時間を要する地域が存在し、花巻南 IC、北上江釣子 IC とのアクセスに支障となる混雑区間・事故危険区間が存在する。

花巻 IC 周辺地域から岩手県立中部病院への救急搬送は、花巻空港 IC を利用しているが、病院到着まで一般道利用区間が長く、かつ通行経路が込み入っており、時間を要する。

(仮称)花巻 PA スマート IC の整備により、IC へのアクセス性が向上し、時間短縮により救急医療活動に大きく寄与することのほか、混雑を回避した時間信頼性の向上や事故多発区間を避けた安全の確保が期待される。

3) 地域環境の向上

富士大学では地域貢献の一環としてスポーツ振興が盛んであるが、関東方面の試合開催時には混雑区間を通過することから、IC アクセスに時間を要している。

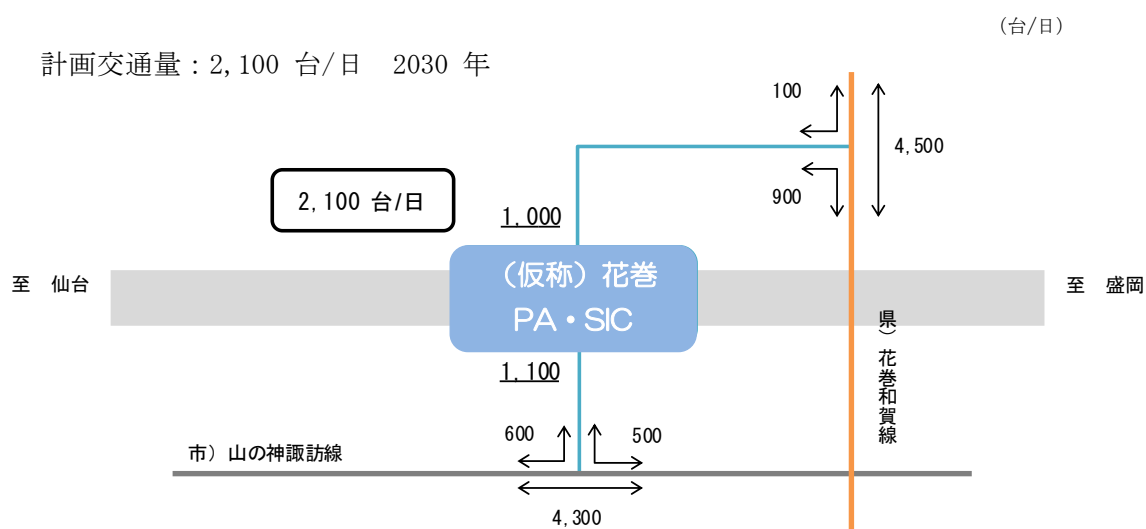
(仮称)花巻 PA スマート IC の整備により、IC アクセス時間の短縮が図られ、選手の練習時間確保など教育環境の向上が期待される。

また、花巻市では道の駅「はなまき西南」の整備が進んでおり、道の駅へのアクセス性の向上により、道路利用者のための休憩機能や、地域の情報発信機能の利便性が向上し、地域活性化が期待される。

4. 計画交通量、供用予定時期

(1) 計画交通量

(仮称) 花巻 PA スマート IC の計画交通量は、実績に基づく ETC 利用率及び交通量推計年次に対応する道路ネットワークに基づき推計した。



(2) 供用予定時期

2023 年度（令和 5 年度）までを目標とする。

5. 連結のために必要な工事に要する費用の概算額

(仮称) 花巻 PA スマート IC 全体事業費は約 20 億円であり、うち、花巻市分は約 2 億円である。

6. 管理・運営形態

(1) 運用形態

(仮称) 花巻 PA スマート IC は、運行時間を 24 時間とする。

(2) 対象車両

ETC 車載器を搭載した全車種。

(3) 利用形態

上り（仙台方面）、下り（青森方面）ともに入口・出口として利用可能。一旦停止型。

E4 東北自動車道「花巻パーキングエリア（上り・下り）」に出入口を設ける。

(4) 監視員体制

隣接インターチェンジ等の料金所からの遠隔監視・対応を基本とするが、安全確保のため供用直後は監視員を配置する場合もある。

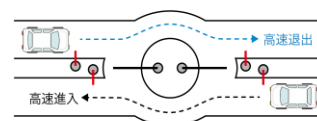
なお、遠隔監視・対応の体制については、今後、関係機関と協議していくものとする。

(5) 運用中の安全対策

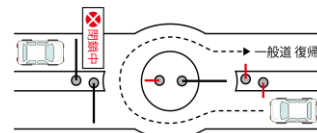
誤侵入車両が安全に退出できるようラウンドアバウト（環道）型退出路を設置する。

【ラウンドアバウトイメージ】

■通常時（ETC 車）



■前進後退時（非 ETC 車）



7. スマート IC の設置により期待される整備効果

1) 地域産業の支援

- ・花巻市は、高速 IC、JCT、新幹線駅、空港が近接する交通結節点であり、製造品出荷額や企業進出が増加している。製造品の搬送においては、主に仙台・関東方面間での高速道路利用が多い。
- ・また、花巻市及び近隣の市町村を中心に岩手県中央部における継続的かつ安定的な食料供給の拠点としての役割を担う花巻市公設地方卸売市場が存在する。入出荷においては、生鮮品を扱っているため、主に高速を利用している。
- ・企業活動の活発化が進む中、当該地域では、近接 IC のアクセスに時間を要している。
- ・近隣産業機器製造業者から北上江釣子 IC まで約 9 分短縮、花巻機械金属工業団地から北上江釣子 IC まで約 6 分短縮など、(仮称)花巻 PA スマート IC の整備により運輸時間の短縮が図られ製造品入出荷時における輸送コストの削減や入出荷量増加が期待される。

▼整備地区周辺の主な産業団地・企業からの想定ルート



【北上工業団地 製造業者の声】

<企業①>

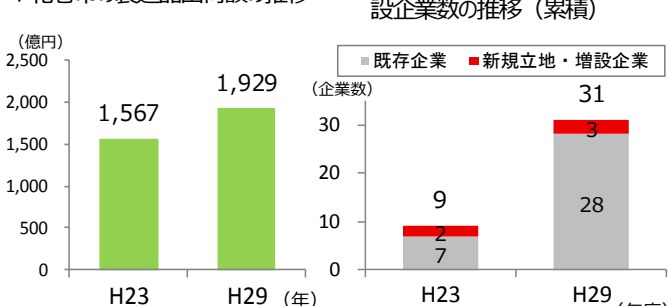
- 主要生産品目：機械部品の正面処理、■道路利用状況：ほぼ毎日
- 利用に向けた意向
- ・機械加工部品を北上工業団地から滝沢市や八戸市へ花巻空港 IC を利用して輸送しています。スマート IC の整備により、高速道路へのアクセス性が向上し、従業員の業務効率につながります。

<企業②>

- 主要生産品目：半導体等製品の出荷、■道路利用状況：ほぼ毎日
- ・大手半導体製造業者の製品を北上工業団地から関東方面へ北上江釣子 IC を利用して輸送しているところですが国道 4 号は渋滞が激しいため西側の市道を行っていますがこちらも混雑している状況です。スマート IC の整備によりこれらの混雑区間を回避でき、輸送時間の短縮が期待できます。

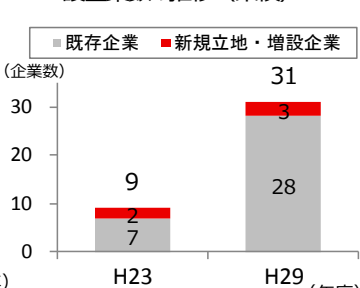
資料：H30.11ヒアリング結果

▼花巻市の製造品出荷額の推移



資料：工業統計

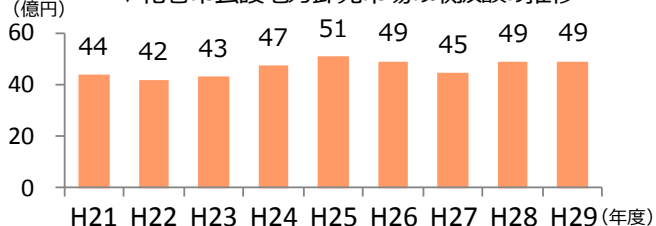
▼花巻市誘致企業等における新規・増設企業数の推移 (累積)



資料：花巻市 (H30.3時点)

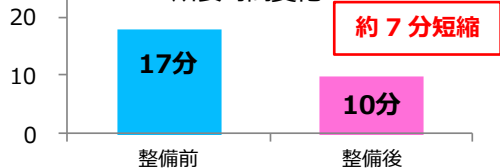
・H23 既存企業数は H20～H22 までの合計
・H29 既存企業数は H20～H28 までの合計

▼花巻市公設地方卸売市場の取扱額の推移



資料：花巻市

▼花巻公設卸売市場～北上江釣子 IC の所要時間変化



資料：平成 27 年度全国道路・住居交通静態調査 (非渋滞時平均速度、上下平均)

【産業機器製造業者の声】

- ・国内除雪機の約 7 割を生産しています。
- ・製品は、約 7～8 割を北上市以南 (北上市、宮城県、静岡県等)へ、主に北上江釣子 IC を利用して輸送しています。
- ・アクセス道路も含めたスマートインターチェンジの整備により、輸送コスト削減や、運転手の拘束時間削減が期待できます。

資料：H30.11ヒアリング結果



【花巻市公設地方卸売市場の声】

<水産品>

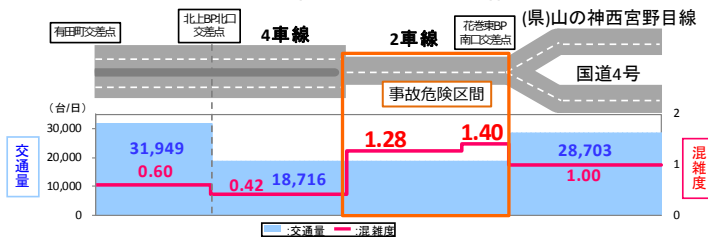
- ・生鮮品であるため、輸送は主に高速を利用しています。
- ・SIC が整備されれば、出荷時間を遅らせることが可能になります。ピッキング (積込積卸) 時間に余裕ができるので、ミスを減らせ、1 台当たりの出荷量を増やすことができます。

資料：H30.2ヒアリング結果

2) ICアクセスの向上

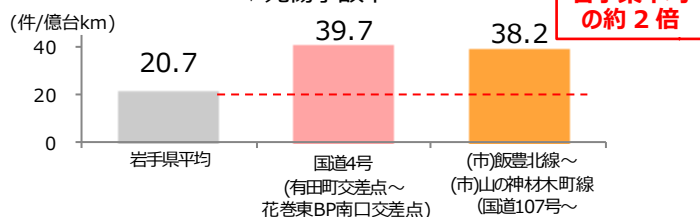
- ・主要路線である国道4号は約2万台/日の交通量があり、混雑度最大1.4と混雑が激しい路線である。死傷事故率では、国道4号及び並行する西側市道が県平均の約2倍となっており、国道4号では事故危険区間の指定がある。花巻消防の救急搬送は、県立中部病院への搬送で花巻空港ICを利用しているが病院到着まで一般道利用区間が長く、道路状況が不明確であるため、時間短縮が課題となっている。
- ・(仮称)花巻PAスマートICの設置により県立中部病院の20分カバー圏域が拡大するほか、県立中部病院から矢巾町の岩手県高次救命救急センターまで約4分短縮するなど円滑な救急医療活動の実施が期待できる。また、ICアクセス10分圏人口が約14,800人増加し、流動が多い花巻市以北地域に対して、市民の通勤や買い物、通院等の利便性の向上が期待される。
- ・さらに、製造業者や卸売市場、病院、大学などからスマートICへの移動で死傷事故率が高い区間を回避することが可能となる。

▼国道4号の車線数・交通量・混雑度



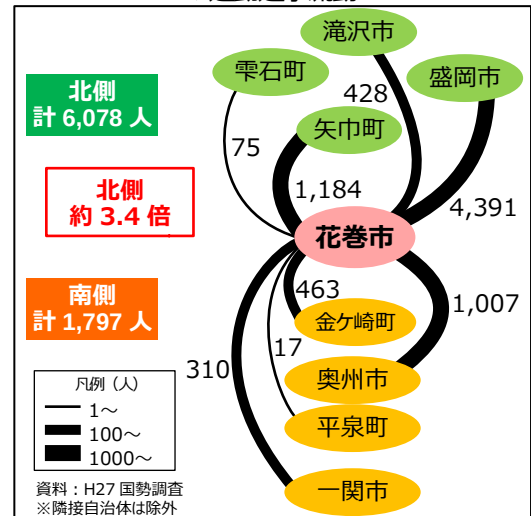
資料：平成27年度 全国道路・街路交通情勢調査

▼死傷事故率



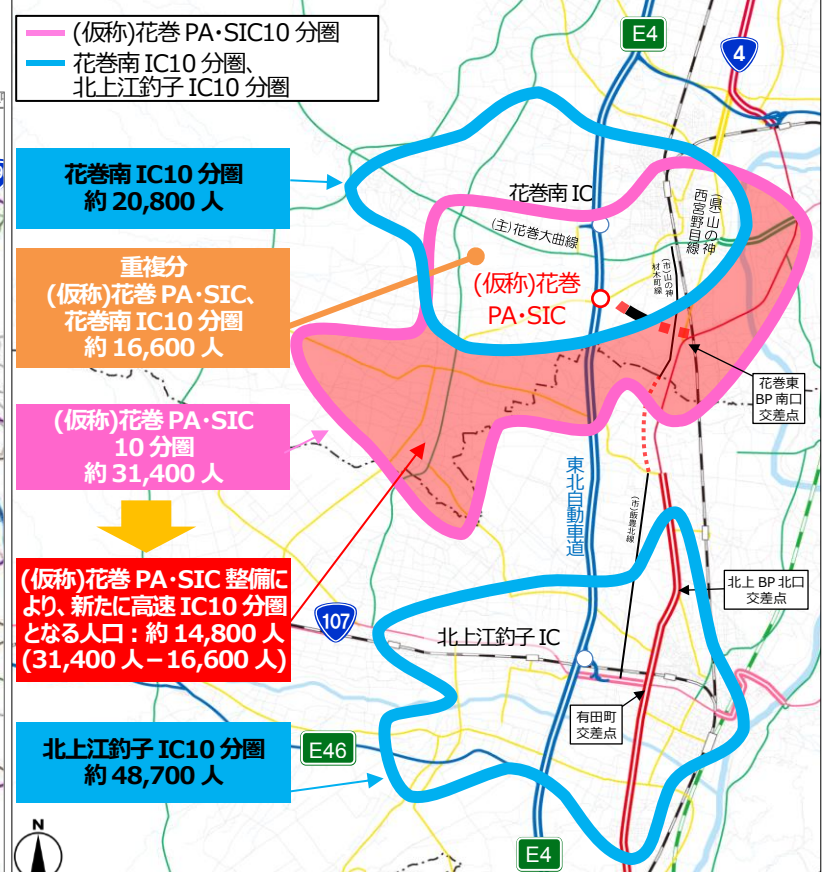
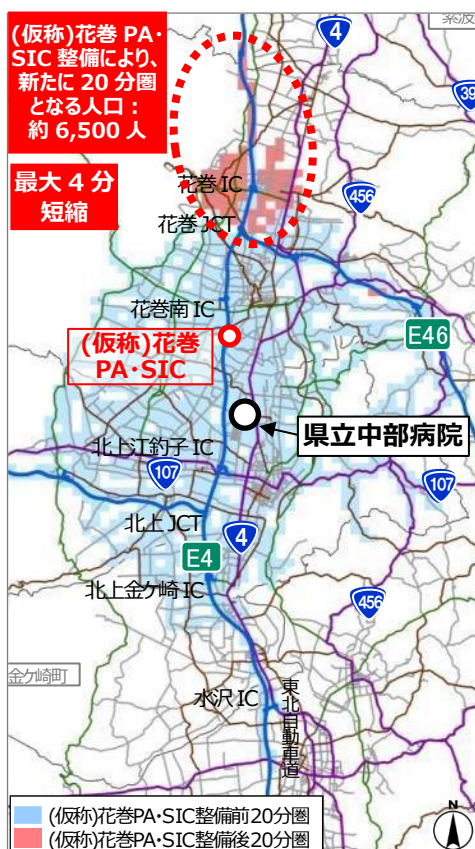
資料：ITARDA データ(H25-H28)、市道は警察事故データ

▼通勤通学流動



▼高速IC10分圏域図

▼県立中部病院 20分圏域図



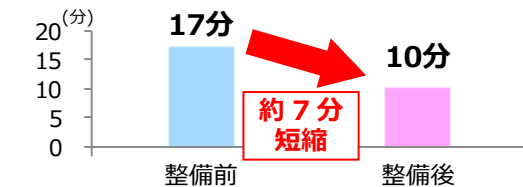
条件：・現況：H30プローブデータ(4-6月、平日)混雑時旅行速度(プローブデータなし区間はH27センサスピーク時上下平均速度を使用)
・整備後：(仮称)花巻PA-SIC整備後として算出

※H27国勢調査500mメッシュ人口を使用

3) 地域環境の向上

- ・富士大学では地域貢献の一環としてスポーツ振興が盛んであるが、関東方面の試合開催時には混雑区間を通過することから、ICアクセスに時間を要している。
- ・(仮称)花巻PAスマートICの整備により移動時間が短縮され、選手の練習時間確保などが期待される。
- ・また、花巻市では道の駅「はなまき西南」の整備が進んでいる。(仮称)花巻PAスマートICの整備により、道の駅へのアクセス性が向上され、道路利用者のための休憩機能や、地域の情報発信機能の利便性が向上し、地域活性化が期待される。

▼北上江釣子 IC～富士大学間の所要時間の変化



資料：平成 27 年度全国道路・街路交通情勢調査（非混雑時旅行速度、上下平均）



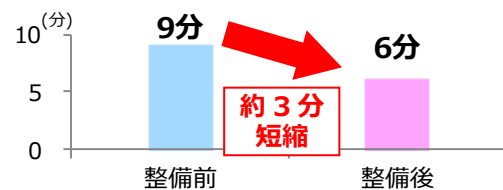
出典：富士大学 HP

【富士大学スポーツセンター概要】

- ・スポーツセンターは、総面積 14,466 m²。天井の高さ約 20m のスケールを誇る屋内総合体育館。
- ・屋内 300mトラック・多目的運動場が一体となっており、大学施設としては日本最大級の大きさを誇る。
- ・屋内 300m 運動場のトラックは、一部ゴム（タータン）床暖房システムを取り入れるなど、1 年を通して快適に運動することが可能。

資料：富士大学ホームページ

▼花巻南 IC～道の駅「はなまき西南」間の 所要時間の変化



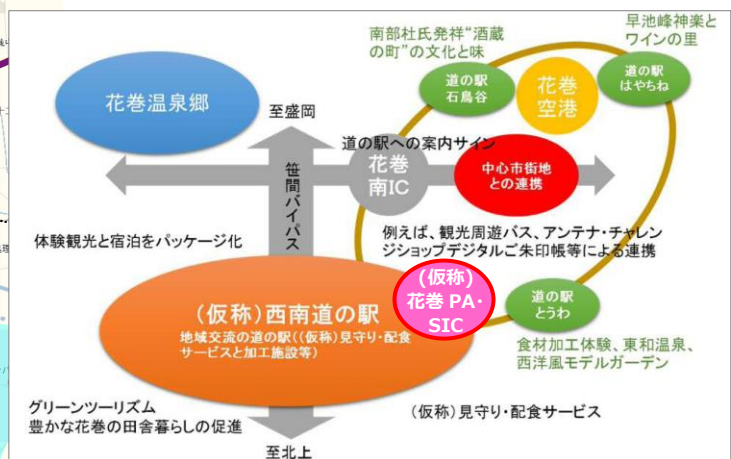
資料：平成 27 年度全国道路・街路交通情勢調査
(非混雑時旅行速度、上下平均)

▼道の駅・大学から IC 間の経路



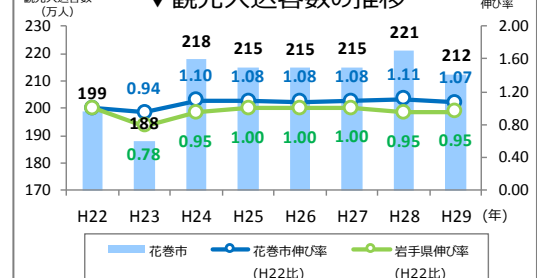
(C) INCREMENT P CORPORATION 許諾番号 PI1506

▼道の駅と(仮称)花巻PAスマートICの関係



資料：花巻市(仮称)西南道の駅基本構想(第1回整備検討委員会資料)

▼観光入込客数の推移



資料：岩手県観光統計概要

8. 周辺道路整備計画図（高規格、花巻市周辺一般道）

- ・（仮称）花巻 PA スマート IC 周辺では、花巻市が（市）山の神諏訪線、北上市が（市）飯豊北線を整備中である。

